

1 単元 古代国家の展開

2 単元について

(1) 単元の意義

3世紀後半から4世紀に、奈良盆地を中心とする地域に、大王を中心として、畿内の有力な豪族を支える強力な勢力である大和王権が生まれた。大和王権は、朝鮮半島から製鉄技術を得たり、中国から日本の支配者として認められたり、国内において製鉄技術や氏姓制度を用いたりすることで、その地位を確立した。その後、大和王権内での豪族の争いや中国とのかかわりを背景に、蘇我氏と聖徳太子が天皇を中心とする政治のしくみを整えていった。聖徳太子の死後、横暴な態度をとった蘇我氏を中大兄皇子と中臣鎌足が倒し、中国を統一し大帝国となった唐の政治体制を参考にし、律令国家を形成していった。

「大和王権」や「聖徳太子」という歴史的語句に代表される本単元での学習内容は、現在にもつながっていることが多い。例えば、6世紀に日本に伝わった仏教を信仰している日本人は、現在人口の約70パーセントを占めている。また、「6世紀に仏教が伝わってきた」で終わってしまうのではなく、「仏教を取り入れた政治を行ったこと」や「仏教文化である飛鳥文化、天平文化が発展したこと」など、一つひとつの出来事として区切ってしまうのではなく、それぞれの出来事の歴史的なつながりを意識させることが大切である。歴史的因果関係を考えさせ、歴史の流れを理解させることによって、歴史的分野に興味をもたせることができる。

本単元では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至る過程を通して理解させる。加えて、仏像や壁画などから、飛鳥文化や天平文化が国際的な要素をもった文化であったことを捉えさせ、日本と東アジアとのつながりを把握させる。このことは、国内だけでなく、国外にも目を向け、広い視野で歴史のつながりを理解する姿勢を身に付ける上で意義がある。

(2) 系統的に見た位置

前単元「日本列島の誕生と大陸との交流」では、日本列島の成り立ちと日本人のルーツについて関心をもち、縄文時代は土器の使用によって生活が向上し、弥生時代は稲作が始まり、むら同士の争いが増え、人々の生活が大きく変化したことを学習してきた。

本単元では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至る過程を通して、天皇・貴族の政治が展開されたことを、理解する力を養う。また、日本と東アジアとのかかわりを文化という面から捉える姿勢を作る。本単元で身に付ける、広い視野でつながりを把握する力は、次単元「貴族の政治から武家政治へ」での中世以降の様々な人や出来事が絡み合う時代を捉えるための助けとなると考える。

(3) 単元と生徒との関係

担当する中学2年A組は、全体的に明るく元気なクラスである。授業中の発言が多く、問いかけに対して答えを返したり、疑問に思ったことを積極的に教師に質問したりする活気のあるクラスである。学習に対するモチベーションについては、個人間でやや開きはあるものの、全体的に前向きに授業に取り組むような雰囲気がある。本単元では、理由や原因からつながりを理解することを目指すため、ただ語句を覚えるだけになってしまわないように、考えさせる発問をして、一人一人が考える機会を多く設定する必要がある。

3 目標

聖徳太子の政治、大化の改新から律令国家の確立に至る過程を、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、天皇・貴族の政治が展開されたことを、意欲的に考えることができるようにするとともに、仏像などについての資料から、飛鳥文化や天平文化が国際的な要素をもった文化であったことをつかみ、日本と東アジアとのつながりを理解できるようにする。

4 評価規準

- 古墳の広がりやヤマト王権による国内統一について、東アジアの動向を背景に考察し、その過程を適切に理解している。(知識・技能)
- 大化の改新や壬申の乱を通して、天皇の地位が高まっていったことを考察し、その過程を適切に表現している。(思考・判断・表現)
- 中国を中心に東アジアで律令政治が始まり、日本の政治も変化していったことを意欲的に追究しようとしている。(主体的に学ぶ態度)

5 指導計画と評価計画（6時間完了）

[知]：知識・技能、[思]：思考・判断・表現、[主]：主体的に学ぶ態度

指 導 計 画		評価規準と評価計画	
学 習 内 容	時数	観点	評価規準と評価方法
○ 大和王権と渡来人 ・ 巨大な墓とヤマト王権 ・ 大王と豪族と人々 ・ 中国・朝鮮との交流と渡来人	1	[主]	古墳の広がりやヤマト王権による国内統一について興味をもち、その過程を意欲的に追究しようとしている。 【ノート・発言】
○ 東アジアの統一国家 ・ 中国・朝鮮の統一 ・ 蘇我氏と聖徳太子	1	[思]	日本国内から見る古代国家の形成過程や、蘇我氏と聖徳太子が日本の政治のしくみを整えていった過程を資料からつかみ、根拠をもって発表できる。 【ワークシート・発表】
○ 律令国家をめざして ・ 大化の改新 ・ 律令国家の成立	1	[知]	中大兄皇子と中臣鎌足によって行われた大化の改新から白村江の戦いまで見て、律令国家をめざす前後の流れを把握し理解している。 【ノート・発言】
○ 奈良の都と律令制下の暮らし ・ 奈良の都 ・ 律令国家のもとでの暮らし	2	[思]	壬申の乱を経て、中央集権国家を目指す動きが強まったことや、平城京と藤原京の違いを理解し、なぜ都が移ったのか考察している。 【ノート・プリント・発言】

○ 国際色豊かな文化 ・ 飛鳥文化と天平文化 ・ 万葉集と歴史書	1 本時	主	飛鳥文化や天平文化の内容について関心を持ち、意欲的に調べることによって、飛鳥文化や天平文化は仏教を中心とした国際的な文化であることを理解している。 【ノート・発言】
--	---------	---	---

6 本時の指導

(1) 目標

- 飛鳥文化や天平文化の内容について関心をもたせ、飛鳥文化や天平文化は仏教を中心とした国際的な文化であることを理解させる。

(2) 準備

教科書『中学社会歴史的分野』日本文教出版、図説『中学歴史資料集 学び考える歴史』浜島書店、アジア（西アジアから東アジア）の白地図、仏像の画像

(3) 関連

(4) 指導過程

時間配分	学習活動	指導上の留意点
5 分	1 現在行われている仏教行事（お盆等）を示し、日本と仏教の関わりについて興味をもつ。	○ お盆などの現在行われている仏教の行事を示し、身近な出来事や素材から、日本と仏教の関わりについて興味をもたせる。
23 分	2 インド・中国・朝鮮半島を経て仏教が伝わった流れを確認し、日本で初めての仏教文化であり、大陸からの影響が強い飛鳥文化について理解する。	
(5 分)	(1) 仏教が日本に伝わるまでの流れをつかむ。	○ 起源はインドであり、インド、中国、朝鮮半島を経て、6 世紀に日本に伝わったことを確認させる。アジアの白地図を用意して、視覚的にどのルートで日本に仏教が伝わったことを確認させる。
(18 分)	(2) 仏教が伝わった当時の仏教にかかわる文化に関心をもつ。	○ 仏教が伝わった当時、それまでの古墳にかかわって、寺をつくることで権威を示そうとしたことを理解させ、その実例として飛鳥寺や法隆寺がつくられたことを挙げる。パソコンで画像を見せる。 ○ 寺から仏像に視点を変え、ギリシアの彫刻や朝鮮半島の仏像などと日本の仏像が似ていること、日本の仏像は大陸からの影響を受けていることに気付かせる。そのために、日本・中国・朝鮮半島・インド・ギリシアの彫刻がそれぞれどこの国のものなのか4人グループにして考えさせる。なぜその国だと思うのか理由も考えさせる。

17 分	3 東大寺の大仏を中心にして、天平文化について理解する。	
(7 分)	(1) 仏教の力により、日本を護り、社会の動揺を抑えようとした背景をつかむ。	○ 飛鳥文化から天平文化に頭を切り替えさせるために東大寺の写真をみせる。 ○ 国分尼寺・国分寺、大仏がなぜ作られたのかとらえさせる。そのために、図説の「聖武天皇と仏教」の部分を読ませる。補足として、天候不順やききん、天然痘などにより国内が混乱していたことを補説する。 ○ 東大寺を作るのに貢献した行基についても触れ、寺院や僧の制度を整えるために鑑真が日本にきたことも復習しておく。
(10 分)	(2) 天平文化は仏教文化であると同時に国際色豊かな文化であったことに気付く。	○ 正倉院の宝物を示し、どこの国から送られてきたものか確認させる。この際、正倉院がシルクロードの終着駅と呼ばれていたことについて触れる。螺鈿紫檀五絃琵琶を例に挙げ、地図上でどの国のものか確認させる。その後、白瑠璃碗や紺瑠璃杯についても説明する。
5 分	4 飛鳥文化・天平文化はともに仏教文化であり、国際色豊かな文化であったことを理解する。	○ 現在も、正倉院などに残されている多くの宝物から、天平文化は国際色豊かな文化であったことを理解させる。
評価事項 飛鳥文化や天平文化の内容について関心をもち、飛鳥文化や天平文化は仏教を中心とした国際的な文化であることを理解している。 【ノート・発言】（主体的に学ぶ態度）		

(5) 板書案

〔飛鳥文化と天平文化〕 ○ 仏教が日本の文化にもたらした影響は何か ○ 飛鳥文化と天平文化に共通することは何か ① 飛鳥文化＝日本最初の仏教文化 朝鮮半島・中国、西方の文化の影響 ○ 仏教…6 世紀に日本に伝わる ・ 寺院建築…飛鳥寺＝蘇我馬子建立 法隆寺＝聖徳太子建立 ・ 仏像…法隆寺金堂釈迦三尊像 広隆寺半跏思惟像	② 天平文化＝仏教文化 唐や西方各地の文化の影響 ○ 国家を護るために仏教を用いる…聖武天皇 ・ 国分尼寺・国分寺建立 ・ 東大寺建立 ・ 社会事業…行基の貢献 ・ 寺院や僧の制度を整える…鑑真 ○ 正倉院…シルクロードの終着点 唐や西方の宝物が納められた 飛鳥文化・天平文化 仏教文化 国際色豊かな文化
---	--